

全国漁業信用基金協会 富山支所



1 富山県の紹介

富山県は、本州日本海側の中央に位置し、東西南の三方を急峻な山々に囲まれ、深い湾を抱くように平野が広がっています。コンパクトな形状ながら、標高3,000m級の立山連峰をはじめとした北アルプスから、水深1,000mをこえる富山湾に至るまで、高低差4,000mのダイナミックで変化に富んだ地形が特徴となっています。面積は4,247km²、人口は98万人台で、概ね全国の1%程度となっています。

県内には、黒部ダムや立山黒部アルペンルート、五箇山の合掌造り集落をはじめ様々な観光名所があり、国内外から観光客が訪れています。

さらに、今年1月にニューヨーク・タイムズ紙が発表した「2025年に行くべき52か所」に富山市が選出されました。「混雑を避けながら、文化的な感動や美食を楽しむ」街と評価され、記事で紹介された「富山市ガラス美術館」などの観光スポットや飲食店はこれまで以上に観光客でにぎわっています。



岩瀬浜と立山連峰
(写真提供：(公社)とやま観光推進機構)



黒部ダム
(写真提供：(公社)とやま観光推進機構)



みくりが池



相倉合掌造り集落
(写真提供：(公社)とやま観光推進機構)



富山市ガラス美術館
(写真提供：富山市観光協会)

2 富山県の水産業

富山湾は、駿河湾、相模湾と並び、日本を代表する深さを持つ急峻な湾で、沿岸部には、深い藍色をした「あいがめ（藍瓶）」と呼ばれる海底谷が複雑に発達しています。

富山湾は、豊かな土壌の栄養分をたっぷり含んだ河川水が流れ込む表層部、対馬暖流が流れる中層部、水深300mより深いところにある冷たい日本海固有水（海洋深層水）が流れる深層部の3層構造になっています。この構造のおかげで、日本海に分布する約800種類の魚介類のうち約500種類が生息する富山湾は「天然のいけす」と呼ばれるほど、水産

資源が豊富な状況となっています。

古くから定置網漁業が盛んで、対馬暖流系の回遊性魚類（ブリ類、イワシ類、スルメイカ等）やホタルイカが漁獲されています。



ホタルイカ漁
(写真提供：(公社)とやま観光推進機構)



シロエビ漁

中でも、氷見の定置網漁業は令和3年2月に日本農業遺産に認定されました。400年以上の歴史ある伝統的な定置網漁業は、環境にやさしい持続可能な漁業として評価されています。

定置網漁業以外では、小型底びき網漁業で主にシロエビなど、かごなわ漁業でベニズワイガニやバイ類などが漁獲されています。

県が認定する「富山県推奨とやまブラン



氷見鮭



ホタルイカ



シロエビ

(写真提供：(公社)とやま観光推進機構)



高志の紅ガニ



新湊漁協の昼セリ

(写真提供：(公社)とやま観光推進機構)



「寿司といえば、富山」
ロゴマーク

ド」には、富山湾の「ブリ」「シロエビ」「ホタルイカ」「高志の紅ガニ(ベニズワイガニ)」といった海産物のほか、「ます寿し」「かぶら寿し」「ほたるいかの沖漬け・醤油漬け」など多くの水産加工品が名を連ねています。

富山県は、定置網をしかける漁場が港から近いこともあり、水揚げされた魚はすぐに市場に並び「きときと(新鮮な)」状態で出荷されています。新湊漁港では、早朝のセリのほか、全国的に珍しい昼セリが行われており、事前予約により見学することができます。

現在富山県では、官民一体となって「寿司といえば、富山」をPRし、認知度向上やブランディングを推進しています。

3 富山支所の概要

- 住所：富山市舟橋北町4番19号
(富山県森林水産会館5階)
- 電話番号：076-441-6127
- 全国協会理事：白田 知己
- 運営委員長：池田 文也
- 会員数：59会員
- 出資総額：551,450千円(令和7年3月末現在)
- 保証残高：1,403,100千円(令和7年3月末現在)
- 常勤役員数：3名

4 富山支所の取組

富山県の漁業を取り巻く環境は、漁業就業者の減少や高齢化に加え、物価高騰を背景とした燃料や資材価格の値上がり、能登半島地震の影響によるシロエビやベニズワイガニ等の不漁など、先行き不透明な状況が続いております。

このため当支所では、これまで以上に、漁業者にとって必要な資金が円滑に調達さ

れるよう、県や系統団体、金融機関と連携して保証の推進に取り組み、富山県の漁業の振興に努めてまいります。

併せて、今年6月本所理事会で決定された、今後5年以内を目標とする支所統合の早期実現に向け、北陸4県スクラムを組んで、積極的に取り組んでいきたいと考えております。